

●個別学習

■児童生徒実践型

実践タイトル タイムシフト映像で自分の運動を振り返る

本時のねらい

本時は前時までに学習している面打ちに加え、初めて胴打ちを行う。それぞれの学習のポイントを自作のDVDで学んだうえでペア練習を行っていく。イメージを掴んで運動をする。さらに自分の姿を映像で振り返り、イメージとのズレを自己修正していく。自分の姿を客観的に捉えるためにICTをツールとして活用する。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

録画再生装置
(タイムシフト再生機能)

タイムシフト機能をいかした練習場を設置することにより、生徒各自が自分の運動の様子を振り返りながら練習に取り組みることができた。振り返りのポイントは自作教材を有効に使って生徒に確実につかませておいた。

実物

生徒一人ひとりの自分の運動の姿がそれぞれの教材となる。ペア学習の場面でも、動画として表示される姿をもとにして具体的な教え合いが展開された。またハイスピードカメラを用いることで、よりポイントを絞り込んだ指導をすることができた。

参考にしてほしいポイント

ポイントを掴ませるために教師が自作のデジタル教材を作成した。カメラの角度、文字説明や効果音の有無など、授業の本質に迫るための教師のこだわりが存在している。また、タイムシフトの場（生徒が自分たちで学習を振り返る）を設けることで、教師はより個に応じた指導にあたることができた。教材の作成、場の設定など、ICTをうまく組み込んだ授業設計力が重要であると考えられる。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	0 ○めあてを確認する。 映像を見ながら胴打ちの仕方について学ぶ。 ・構え方 ・足の踏み出し方 ・体の流し方	・デジタルテレビ ・録画再生装置 ・動画（剣道部の生徒に協力をしてもらい、指導者の視点で作成した自作教材DVD）（写真1）
	10 ○ペア活動 面打ち（既習）と胴打ち（本時初）の練習の場に分かれてペア学習に取り組む。 「面打ち場」ではタイムシフト機能を使って、映像で自分の姿を振り返りながら練習をする。（写真2） 「胴打ち場」では教師が丁寧な個別指導にあたりながら、ペア練習に取り組む。（写真3）	・デジタルテレビ ・録画再生装置 ・デジタルビデオカメラ ・ハイスピードカメラ
	40 まとめ	○活動の様子を振り返る。



写真1：自作教材でポイントをつかませる

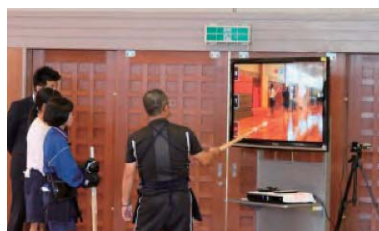


写真2：タイムシフト映像で自分の動きを確認



写真3：教師は個々の実技指導にあたる

児童生徒の反応

「まだまだ、踏み出す足の力強さがね」「スピードも足りないな…。自分のイメージとのズレを自己分析する声が多くあがった。さらに学習成果が自分でも把握できることが練習のモチベーションアップにもつながった。ハイスピードカメラの映像は「ココ！」という瞬間を映像として切り出すことができるため、より具体的に自分の姿をとらえることができた。

活用効果

評価の観点	運動についての思考・判断
具体的変容	動画（DVD教材）を利用することで、面打ち・胴打ちの基本動作とポイントが掴みやすく、運動のイメージを掴むことができた。タイムシフト映像やハイスピードカメラを使うことで、自分の運動の姿を掴むことができた。二つのズレを修正していく活動を通して、技能とともに運動についての思考・判断力も高まっていった。

実践の手応え

カメラの角度を工夫したり、目的に応じて機器を使い分けたりすることで指導できる内容も変わる。何を指導すべきなのか、目的を絞ってICT機器を効果的に活用すれば、一人の教師で何人分もの指導・援助をすることが可能になる。やはりICTは授業をする上で非常に優れたツールなのだと改めて感じた。